

平成29年度 地区PTA指導者研修会

報 告 書

(平成29年12月1日)

静岡県公立高等学校PTA連合会

静岡県公立高等学校PTA連合会会長あいさつ

会 長 小 山 全 司

平成 29 年度地区 P T A 指導者研修会開催にあたり各地区の研修会担当校及び地区世話人校の P T A 関係者のみなさまには研修会の計画・運営にご尽力いただき厚くお礼申し上げます。

県内 11 地区からご提出のあった「研修会報告」を拝読させていただきましたが、それぞれの地区の研修会が充実し参加されたみなさまを含め、その意気込みが伝わってきます。ありがとうございます。

さて、今年は、ご案内のとおり「第 67 回全国高 P 連大会静岡大会」があり、大会運営にあたり主管校・協力校のみなさまには、例年にないお力添えをいただきまして、無事終了することができました。各方面から、静岡の P T A のみなさまからいただいた「おもてなし」に「静岡大会はよかった。」と賛辞をいただいています。

各单位 P T A の行事、地区の行事に加えてのご尽力に、本会としまして深く感謝申し上げます。

本日は、「地区 P T A 指導者研修会」の報告書を H P に掲載しましたので、各地区の実施状況をご一読くだされば幸いです。どうぞよろしく願います。

平成 29 年 12 月 1 日

< 目 次 >

- 1 賀茂地区 P T A 指導者研修会報告…………… 1 P
- 2 三島・田方地区 P T A 指導者研修会報告…………… 2 P～3 P
- 3 沼津・駿東地区 P T A 指導者研修会報告…………… 3 P～5 P
- 4 富士・富士宮地区 P T A 指導者研修会報告…………… 5 P～6 P
- 5 清水地区 P T A 指導者研修会報告…………… 7 P
- 6 静岡地区 P T A 指導者研修会報告…………… 8 P
- 7 志太・榛原地区 P T A 指導者研修会報告…………… 9 P～10 P
- 8 掛川地区 P T A 指導者研修会報告……………10 P～11 P
- 9 磐田地区 P T A 指導者研修会報告……………11 P～12 P
- 10 浜松地区 P T A 指導者研修会報告……………12 P～14 P
- 11 特別支援学校 P T A 指導者研修会報告……………14 P～15 P

日 時 七月四日
会 場 下田高校
参加数 八十名

開会十五時

梅雨の最中、台風が接近中という最悪の状況の中、賀茂地区高等学校PTA指導者研修会が実施された。稲取高校、松崎高校、下田高校南伊豆分校、下田高校の四校より八十名の方々に出席者して頂き、研修会が催された。研修テーマは「まちおこし」、このテーマに沿って、カネサ鯉節店五代目、芹沢安久氏に講演をして頂いた。なお、台風が接近中ということで、急遽夕刻の情報交換会は中止させて頂いた。

当番校PTA会長挨拶

下田高校PTA会長 長田 芳郎

来賓同様、各校参加保護者・先生方に対してお礼を述べた。PTAの意味について述べて(Parent-Teacher Association)、保護者と先生方が協力して子供の未来・夢を実現できるようにサポートしていくことの必要性を説いた。また、スマートフォンの教育環境における影響力について、その有用性と問題点を挙げ、3年前に本会で決定した「スマートフォン利用に関する申合せ事項」を再度配付した。その中で、スマートフォンは社会人にとつては必要不可欠なツールであるが、未成年の場合にはニュース等でも見かけるような様々な問題となつて降りかかってくる。その子供たちの未来のためにこの事項を守っていくのは、我々親の責任ではないか、このことを周知徹底していきたい、と話を締めくくった。

賀茂地区高等学校代表校長挨拶

下田高校校長 饒部 信明

来賓と講師への謝辞と当番校関係者へのねぎらいの言葉を述べた。賀茂地域での過疎化が大きな社会問題となつており、特に子供の数の激減は、教育現場でも心配なところとなつている。しかし、子供が少なくなつても一人ひとりの子供をしつかりと教育していくことには変わりはなく、大事なことは、その子供たちを地域でしっかりと見守り、育てていくことであり、PTAの果たす役割はますます重要になつている。同じ問題を抱えている賀茂地区の高校が、この研修会を通して、一丸となつて取り組むことで、明るい未来が見えてくるはずである。本日の講演が地域の発展、活性化のヒントになるはずなので、各地域に還元してもらいたい、と述べた。



来賓挨拶

高等学校PTA連合会副会長 関 隆之



高P連全国大会についての報告をしていただいた。静岡大会には9316名が参加予定で、うち1177名が静岡県からである。費用約1億円のうち、2500万円ほど開催費が負担することになる。負担の大きさから、大会運営見直しの機運が高まつており、数年後には何らかの縮小が見込まれる。静岡大会では特別第一分科会のパネルディスカッションに松崎高校校長が参加予

定である。賀茂地区からの参加者は大会運営補助担当が無くなったため、従来の全国大会と同様の形で参加となる。最後に研修会が意味あるものになることを祈つて挨拶とされた。

PTA指導者研修会報告

下田高校副校長 稲葉 健

県総会の議事内容及び本県開催の全国大会に関する協力依頼等の報告があった。また、静岡大学阿部教授の講演について、地域活性化のための循環型支援体制構築の必要性、地域プラットフォームによる学校支援、様々な取組事例の紹介等、今後、学校と地域社会との連携を考える上でたいへん参考になったと述べた。

講演 講師 芹沢安久

演題 カツオ文化とまちおこし活動

「カネサ鯉節商店」は明治15年創業、上質の鯉節 田子節の製造元として約130年以上続く老舗。現在5代目として伝統製法の「手火山式焙乾法」による鯉節を始め日本の伝統的保存食であるかつおの塩漬「潮鯉」などかつお関連製品の製造を手がけている。



西伊豆町は日本一の夕陽や堂ヶ島のトンボロ、ガラス工芸で有名なが、人口は激減し観光客数も落ち込んでいる。昭和45年頃は三十艘もの大型船が操業していたかつお漁も平成12年にはほとんど無くなくなってしまった。

この状況に危機感を抱いた若手の次期経営者が集まり、西伊豆のオンリーワン「潮鯉」を現代に合う形で発信しようとして試行錯誤の上「おかつおのふりかけ」を開発した。その後有志の会「西伊豆しおかつお研究会」を設立し、千三百年余り続く鯉文化と西伊豆の風景を一皿に表現した「おかつおうどん」でまちおこしの活動を始めた。

ご当地グルメの祭典「オーグランドプリ」に参加、海外ではイタリアのスローフード協会「アーク・オブ・テイスト」味の箱舟プロジェクトに登録し、宣伝活動に奔走している。また地域の学校での調理実習や給食提供、鯉節製造工程の見学や体験の受け入れなど鯉節やかつお食文化の保存と継承を目指し活動している。様々な活動の結果、潮鯉の生産量は増大。数々の賞も受賞した。まちおこしは人に繋ぐひとおこし。誰にでもできる簡単なまちおこしは、地域に伝わる伝統的な料理を次世代に引き継ぐことである。「おかつお研究会」の合言葉「ありがつつお(鯉)ございます」で締めくくった。

謝辞

下田高校PTA会長 長田 芳郎

本日は大変素晴らしいお話をありがとうございました。時間が足りずに申し訳ありません。カツオ文化とまちおこしは地元文化の特産と町おこしをつなげていく、大変素晴らしいことだと思えます。これからもその活動を西伊豆町だけでなく



伊豆全体に広げ、伊豆の活性化に取り組みたいと思っています。述です。

リソースは何か。

良い見方をする。よく誘われる↓友達が多い、口答えする↓考えを持つている、反抗的↓自立心がある、成績がひどい↓わからない・つまらないのに授業を受けて我慢強いなど。軽視・甘やかしなどかもしれないが、だからといって厳しくしたら直るのか？ わかってくれない・認めてくれないといった不満に繋がったり、自信を奪うことにはならないのか。お互いの役に立つものを見方・捉え方をしたい。人に認められたことを人は守ろうとする。そのシャワーが自信になる。褒めて伸ばす」というのはそういうことではないのか。

絶対これだめ！」と言うのはOK。誰が言うか？自分をわかってくれている人の注意・指導なら受け入れる。

子どもの保護者としてもたくさんの先生方に出会ってきたが、断トツに解決志向なのが佐野先生(三島南高校長)。先生は生徒自慢がすごい。話の9割が生徒のいいところの話。保護者は自分の子どもの悪いところ、だめなところ、いいところを知っている。ちゃんと見てくれている」と安心感・信頼感に繋がる。

クラス懇談会も担任によつて色がある。学校での様子について 困る、できていない、ご家庭でも協力して…と言われるよりも、解決志向で「ただけどいいところもある。おうちのおかげです」と言ってもらえるほうが参加人数も多くなる。保護者は追い討ちをかけられたくない。楽しく、安心できると参加してよかったと思う。

大人も子供もいいところを認めてくれる人は裏切らないようにしたいと思う。変化は必然！に例外がある。問題の中に例外がある。変わらないものは何もない。足りないところを修正しようとする」と例外を見ようとする。そこに光を当て、問題を例外で覆つていけば解決に繋がる。相手

のリソースを引き出し、大きな変化を期待する。

変化は必然。針の穴に糸を通すような目で見て、相手の自己肯定感を高める。リソースに対して質問をする。何でできるの？リソースを引き出すためには、自分で考えて、自分で自分を認める、言葉を発するよう促す。どうやってそうできたの？何でそうできたの？どういうときにできるの？どうやってできたの？何でできたの？と。

コンプリメントとは褒めること。動詞だと褒める、名詞だと賛辞、お世辞、賞賛、褒め言葉など。目的は自尊感情を刺激して自己肯定感を上げること。効果は自分や相手に対する捉え方が変われば自己肯定感を上げることができる。

コンプリメントの種類は次のとおり。①直接的コンプリメント。肯定的評価や反応のこと。②過程のコンプリメント。過去のことに対する評価。③ミニニケーションツールを使ったコンプリメント。相手が拒絶するとき、第三者を使つて褒める。直接言っていないが、相手の自尊感情を刺激する。子どもには使いやすい。

中高生は長々褒めても聞いてくれない。会話は続かないがサシセッションでもOK。(流石、知らなかった、すごい、センスある、そうなんだ)合コンではこれを知っていると何とかなる。絶妙なタイミングで声をかける。ご家庭でも試してみてほしい。これらを言われていたら自信がつく。子どもに対しても、褒めたいところ、見えたところ、できているところに対してこれらの一言をかける。

同じ人でも見る側面でまったく違った評価になる。いいところは必ずある。見えていないだけ、見る力がないだけ。人は見たいように聞きたいようにしかできない。見る部分・聞く部分はコントロールしないとイケない。

い。自分がそれを認めて探そうとしないと個性を伸ばすとは光を当てて育むこと。未来のことを考えて。親は守りきれない。自分自身で困難に立ち向かわないといけない。先のことを考えた安心につながる。長い目でみんなで見えていく。対人関係で何が正しいかはない。専門家としてわからないということとはわかっている。この話を何かの折に思い出してほしい。

五 講師
次年度当番校長三島北真校長齋藤 造幸
六 閉会の言葉
次年度当番校PTA会長
三島北真校PTA会長 太田 成幸

沼津・駿東地区 沼津市立図書館
七月六日(木)
参加者 二〇人

- 一 全体会
司会
沼津商業高等学校PTA副会長 横山友香
閉会の言葉
御殿場高等学校PTA会長 窪田充宏
当番校PTA会長挨拶
沼津商業高等学校PTA会長 上原 明
当番校校長挨拶
沼津商業高等学校校長 前田喜人子
来賓挨拶
県公立高校PTA連合会副会長 望月美奈子

研修会報告
沼津城北真高等学校PTA会長 林賢司
今年度も沼津市立図書館を会場に開



催しました。幹事校の沼津商業高等学校PTA会長及び校長の挨拶に続き、県公立高等学校PTA連合会副会長望月美奈子様の御挨拶を頂きました。研修会報告では、県高P連総会に出席した沼津城北高等学校の林賢司PTA会長から研修会の報告と感想をお話して頂きました。

- 二 分科会
全体会の後、4分科会に分かれて各研修テーマに則り、意見交換をし、参加校の校長先生から助言を頂きました。
- 第一分科会
Web利用時の安全対策
沼津城北真高等学校PTA副会長 西眞澄司



(一) テーマ設定の趣旨

インターネットはもはや高校生にとって欠かせないツールになっているが、安全対策についてはまだ認識不足である。学校でも授業などで、便利さの裏に潜む危険性を呼び掛けているが、生徒に完全に浸透しているとは言えない。

夜10時以降の生徒のスマートフォン利用自粛の申し合わせの現状について意見交換をした。

(二) 各校の事例、意見交換

校内でのスマートフォンの使用は制限している学校が多いが、一部使用を認めている学校もあり生徒の自主性に任せている。

スマホアプリを授業などで活用している学校がある。生徒が自宅でも利用する為夜10時以降の自主規制を守られない事もある。

スマホ依存になっている生徒が見受けられる。またSNSなどのトラブルも多くはないがみられる。

高校生の間は必要最低限の機能しか持っていないスマートフォンを持たせたり、スマートフォン自体を持たせないという考えを持

った参加者もあった。

(三) まとめ

時代に合わせ必要とされるツールであり、より有効な使用方法を生徒、学校、家庭(PTA)で今後も引き続き考える必要がある。

第六分科会

PTAと防災対策

沼津城北高等学校PTA会長 林賢司

その必要性は感じていても、ほとんど手がつけられていない。難しいテーマであると思います。

各校共通の取り組みとして、防災訓練・避難訓練の実施、参加。連絡網の整備などがあります。訓練への参加率は80〜90%を超え、また参加しなかった場合も何らかのフォローがあるなど、防災への意識自体は高いです。

個別の取り組みでは、学区のハザードマップ作製。非常時に簡易トイレになる設備を校地内に設置。抜き打ちで避難訓練を実施。緊急時に必要な情報を記した避難カードで情報の共有。学区を細かい地区に分け、連絡を密にするなど、各校独自の工夫がありました。



しかし、これらはいずれも学校、生徒または自治体が主導した対策を紹介しただけです。興味深くはありましたが、各校の現状報告会になってしまった感はありません。PTAとして関わることの難しさを改めて感じました。

最後に、助言者の先生より「地域の一人として防災に関心を持つことが大事」高校生は非常時においては大きな力になる」とのお言葉を頂きました。まずは、この点から保護者一人ひとりの意識を高めていき、PTAとして何が出来るとかの考えを深めていくことが重要かと思えます。

第六分科会

PTAの連絡方法について

御殿場高等学校PTA副会長 宮良昭

(一) テーマ設定の趣旨

高等学校における在校生の通学エリアは、広範囲にわたっている。PTA活動や学校行事における学校とPTA、PTA同士での情報交換や連絡は、とても重要になる。現在の情報化社会において、どのような形式で連絡手段を確保しているのか皆様からの意見をいただくことで、今後の活動に生かしたい。

(二) 各校の取組みについての意見交換

① 各学校との意見交換で多くあった意見としては、学校側から生徒を通じての封書及びメールでの連絡方法であり、保護者への渡し忘れやメール登録は強制できないので、全員が登録しているとは限らず難しい部分があるとの意見を頂いた。

② 学校とPTAとの連絡方法については、文書とメール配信や、Webページ等を使用し、学校側とPTAとの連絡確保及び学習支援クラウドサービス「Classi」によるメール配信サービスを使用して、連絡

しているが、習慣化されていない。

③ PTA同士での連絡方法については、電話とメール配信を使用して連絡をしている。

④ 問題点の解決策として、生徒を通じて配布する際に保護者の確認(サイン)を学校側へ返却の期限を設けて提出させることによつて、生徒に責任感を持たせること。また、メール連絡「39メール」使用の際には、メールが届きにくい等の問題点があるので、解除方法を詳しく案内することや地区別で連絡網を作成するなど、各校において努力と工夫を続けていくことを確認することができた。

(三) 助言者からのアドバイス
PTAとして現在の情報化社会における個人情報取り扱いやどこまでの情報共有なのか、各校において新たな実践の取り組みや情報の共有及び活発な意見交換を図るよう御意見を頂いた。

第四分科会

文化祭のPTAの参加について

御殿場高等学校PTA副会長 西本 玲子

(一) テーマ設定の趣旨
文化祭を通して保護者・生徒・教職員が一緒に取り組む事で、異世代との人間関係を達成するための「協力する大切さ」を経験することは大きな意義がある。近年、学校を取巻く環境やPTAの考え方に変化が出てきている。各校の取組みについて情報交換をし、今後の活動に生かしていきたい。

(二) 各校の取組みについての意見交換

① PTAの出店としては、模擬店・バザーが中心となっている。学校によつては、写真展・作品展や制服や体育着等のリサイクルショップを出店している学校もあった。

② 食べ物販売する模擬店では、生徒が出店する模擬店と商品が重ならないように調整をしている。

③ 学校の調理室等の利用については原則、生徒が使用することになっているので、当日の朝からテントで行う学校や下ごしらえ済みの食材を購入して模擬店を実施している学校もあった。

④ 模擬店の運営を生徒と協力をして取り組み、コミュニケーションの場となっている学校が多数を占めており、大きな課題は特になかった。

(三) 助言者からのアドバイス

学校行事への参加は、大変な仕事だが、関わることによってそれ以上のプラス面がある。各校によって取組みはそれぞれ異なるが、今回の分科会での内容を、来年度以降の活動をしていく際の参考にしていただきたい。

三 講演

「尊敬される褒め方と自主性をひきたす叱り方」

湘南話し方センター所長 松永 洋忠 氏

今年度の講演は、シリーズ受講生は四千名を超え、個人指導その他受講生は全国で二十万人以上、人材育成の湘南話し方センター所長として、心の持ち方と話し方・生き方の指導に当たり、多くの支持者を持つ松永洋忠様をお招きし、お話をし頂きました。

特別講演を傍聴して

沼津南草園高等学校PTA研修委員長

鈴木幸夫

本年度の特別講演は松永洋忠先生の尊敬される褒め方と自主性を引き出す叱り方と題した内容でした。話す力・聴く力・伝える力を教室やセミナー等で教授されている先生の講話は私たち傍聴者を惹きつけるものであり、感銘を受けた方も多か

つたと思われまし。

私は3児の父親であり、団塊の世代の子供の時代に生きております。また仕事では郵便局の管理者として勤しむ日々を送っております。今と昔では違うと言われるけれど仕方ないことですが、私が入社したときの社員教育は「精神論・根性論」が中心でまさに怒鳴る、叱られることの繰り返しでした。会社にとって、社員育成は喫緊の課題となつています。しかしながら、褒める・認めることを社員育成の手段として取り入れていくことの重要性和大変さを身に染みて感じている今日この頃です。言つて聞かせて やつて見せて 褒めてやらねば人は動かさず」という先生の言葉は大変共感を受けるものでした。子供に対する接し方も同様です。何気なく、怒る」と叱る」を混同していないか、無意識に子供のモチベーションが下がるような言葉を発していないかを考えさせられました。最近、子供を褒めたことはあつたか・・・言葉が人生を変える、同じことを伝えようとしても言葉一つで、その結果や効果は大きく異なつてきます。上手なプラス暗示の表現で親として、企業人としてその役割を果たしていかなければならないと先生から叱咤激励を受けたような気がしました。

四 全体会

分科会報告

第一分科会

沼津城北草園高等学校PTA副会長 原貞一

第二分科会

沼津城北草園高等学校PTA副会長 林陽雄

第三分科会

御殿場草園高等学校PTA副会長 宮良昭

第四分科会

御殿場草園高等学校PTA会長 窪田充宏

後半の全体会では、各分科会で話し合

われたことを報告して頂き、参加者全員に課題や解決のヒントを共有してもらいました。

五 閉会の言葉

沼津城北草園高等学校PTA副会長 西島 浩司

九月八日(金)
富士・富士宮地区 富士市文化会館
指導者研修会 ロゼンアター
参加者 二三名

一 開会

司会

富士宮西草園高等学校PTA副会長 奥五澤かおり

開会の言葉

富士見草園高等学校PTA会長 松野 智仁

挨拶

富士宮西草園高等学校PTA会長 鈴木 敦子

来賓祝辞

静岡県公立草園高等学校PTA連合会 副会長 望月美奈子



二 発表(内容の要約)

発表一

「協力」の一歩協力としてのPTA活動

静岡県立吉原工業高等学校 PTA会長 藤島小白谷

〈学校紹介〉

本校は、今年創立80周年を迎え、ものづくりをとおして、人づくりをする学校です。卒業後の進路としては、就職がメインなため、より実践的なことを学んでいます。学科は、六学科あり、その中の一つとして、機械科はMachineryの頭文字のMをとつてM科とも呼ばれています。

体育の授業では15分間の体力づくりのサーキットがあり、体育祭では、入場行進が独特なので、それを楽しみに来られる方もいるそうです。

〈PTAの活動紹介〉

入学式、後援会・PTA入会式、PTA本部役員会、役員会(年三回開催)後援会・PTA総会があります。

地区会は、十八地区十五会場で開催され、今年の参加率は72パーセントでした。体育祭の駐車場整備、交通安全街頭指導(年二回)、PTA研修会、PTA生徒合同環境整備作業、文化祭での模擬店、マラソン大会での豚汁作り(豚汁の材料費は文化祭の模擬店での上金)、地域のイベント(ものづくりフェス)に生徒と共に参加しています。

〈まとめ〉

ものづくりをとおしてみんなで協力し、成長していく子供のサポートができればPTAとしても親としても嬉しい限りです。

発表二

創立40周年にあつたPTA活動

静岡県立富士東草園高等学校 いくさ新たな東へ

PTA会長 室月 孝康

☆学校の紹介

今年創立40周年を迎え、十月には記念式典が予定されています。

☆PTAの活動紹介

PTAの組織は会長、副会長六名が各委員会の委員長になっています。

学校行事委員会は、文化祭におけるバザー企画運営、マラソン大会における豚汁作りがあります。

広報・学習支援委員会は、年一回PTA新聞「東風の発行をしています。

保健・交通指導委員会は、各支部当番制で年二回登校指導を行っています。これからも自転車通学の交通指導に力を入れていきたいです。

環境整備委員会は、年二回校内奉仕作業、生活館の清掃を行っています。

40周年の記念事業としてPTAが取り組んだ事業として、生活館・同窓会館（通称東風館）の活用方法について、全校生徒を対象にしたアンケートを実施しました。

アンケート内容

Q1 学校生活にあたりどのように利用したいか。

A 自習室に使用したい。学食、迎える待機場所として使いたい。

Q2 部活動でどのように活用したいか。

A 合宿、練習場、ミーティングに使いたい。トレーニングルームとして使いたい。

Q3 その他東風館の使用に際してほしいこと、あると嬉しい設備等。

A 設備器具（洗濯機）が欲しい。トレーニングジムやマッサージ機が欲しい。勉強合宿に使いたい。

☆まとめ

PTAとしては、アンケート結果をもとに学校と話し合い、可能なことは改善をし、できる限り子供達の要望に応えられる様に、活用方法や必要設備は、今後検討し

ていきたいです。

◎質疑応答 富士東高校へ

Q 生活館（東風館）の改修工事費用の経費の財源はどのようにしていくのか

A 生活館の維持費として積立金

や、地元企業からの寄付金、後援会卒業生からの寄付金があり、予算の中で利用し、設備投資については、学校とも相談し、必要な物をそろえたい。

三 講演会

演題

「コミュニケーションを磨く」

～子どもの声を～から

聴くというところ

講師 齋藤 めぐみ氏

（国家資格キャリアコンサルタント）

講義

キャリアアカウンセラーとしての仕事の内容は、高校生の進路指導、大学生の就職活動の支援など、人生の転機にどのように意思決定し・ていくか、相談にのることです。



話す」を教える場は多いが「聴く」を教える場は少ないのが現状です。子供の話をどうやって聞いたらいいか、聞く前に怒ってしまうという悩みを聞いています。

また、地域で活動していると利害関係の

不一致からコミュニケーションに様々な問題が生じてしまいます。

このようなことから「聴く」を起点にできないかと思い、ワークショップを運営しています。

「聴く」という言葉には、みとめる、ゆるすの意味があります。本来、相手の存在を心から受け入れ、聴くことが繋がりを生み出すことです。自分自身も無条件に存在を肯定することにあります。

◎受容と尊重

自分との違いを受け止める。

◎理解と共感

相手の立場に立つ、価値観、背景、気持ちを理解する。

◎信頼

良い悪いの判断をしない、基準を持たずに話を聴く、立場が弱い人に対しては自分の意見を押し付け、コントロールしようとしてしまう。

◎待つこと

時間と忍耐 すぐに人は変わらないので、おらかな気持ちで間をおそれない。

これらのポイントを押さえることが聴く態度には重要です。

聴く態度には重要で、問いかける「・・・オープンクエスション(What)(何を) How(どのように) Why(なぜ)などを使って問いかけます。Why(なぜ、どうして)を多用しないことです。What(How)を使いながら一緒に考える様な質問をつくって、相手の思考や感情を開いていきます。

「返答する」

相手の話をまとめて要約する。(客観的に理解する。)

相手の言葉をそのまま返す。

(特に気持ちの言葉など)

アドバイスや指示ではなく、提案や一つ

の意見として返答するように努めます。

☆体験

聞き役の方は、言葉を発せずただ黙って心から相手の話を受け止めます。

話し手は、テーマに対して自分の気持ちに問いかけながらただ話します。

☆まとめ

子育て、教育は社会全体です。地域の大人同士で信頼関係ができていれば、ななめの関係の大人の心に話を聴くことが可能になっていきます。自分の存在も相手の存在もコミュニケーションをつくっていくことです。この世界に生まれてきた子供達に、生きること、働くことの喜びを伝えたいと考えています。

四 講師

静岡県立富士高等学校校長 杉山洋一

五 閉会

閉会の言葉

静岡県立富士高等学校PTA会長

渡邊英樹



清水地区

九月八日(金)
エリザベート
参加数 一三四名

開式 14時30分

司会

静岡市立清水桜が丘高校

会長 奥山紀之

広報委員長 佐野千明

一 開式のごは

静岡市立清水桜が丘高校

研修委員長 片瀬恵太

二 挨拶

静岡市立清水桜が丘高校

校長 渡邊紀之

三 来賓挨拶

静岡県立高校PTA連合会

副会長 青山建

四 日程説明

司会者

講演会 15時〜16時30分

講師

一般社団法人笑い文字普及協会

代表理事 廣江まさみ氏

演題

笑顔のありがとうは、奇跡

「笑い文字を通して」

五 閉式のごは

静岡市立清水桜が丘高校

副会長 渋谷卓世

笑い文字創始者として、国内各地また海外においても数多くの講座を開催し、後進を育てながら笑い文字を広める活動をされている廣江まさみ氏を講師にお招きしての研修会の開催となりました。

講演は聞くだけのものではなく、全体を通して、前後左右の参加者と討議を行ったり、また、参加者全員が席を立って移動しながら他の参加者とコミュニケーションを取る等、参加者がただ座っているということがなく、常に参加している状態で、和気あいあいとした中行われました。

人は日々の生活の中で笑顔で感謝を伝えることで人間関係を構築しています。しかしながら、「ありがとう」という言葉を一日に何回言っているだろうか？今日この研修会に参加するまでに、何回、いつ、誰に「ありがとう」と伝えたのか？そんなことを講演の冒頭に投げかけられ講演のスタートとなりました。

人はなぜ笑顔に惹かれるのか？それは、人は笑顔を通してコミュニケーションを図つ



ているからです。たとえ嫌いな相手でも、



にこりして「ありがとう。」と言われれば、自然と自分も笑顔になり良い気分になる。このように人の脳というものは簡単に騙されるものです。

感情は顔を見ると映るものです。相手 が不機嫌な顔をしていれば、自然に自分 も不機嫌な顔になります。反対に、相手 が笑顔を見せれば、自然に自分も笑顔になります。人は笑顔が好きなんです。

その笑顔を最大限に利用しているのは赤ちゃんです。赤ちゃんは一人では何もできません。常に世話をしてくれる人を必要としています。赤ちゃんの目は良く見えますが、その目で目と口の表情から、笑っている人か笑っていない人かを見分けて、笑顔を通してコミュニケーションを図ることで世話をしてもらっています。

「ありがとう」という言葉は「有難う」と書きます。これは「有る」が「難い」また「は在る」が「難しい」、つまり「存在するこ

とが難しいこと、奇跡」を意味します。世界中の言葉の中でこれ程格の高い言葉はないでしょう。

例えば、席を譲ってもらって「ありがとう」と言うことは、席を譲ってもらって「奇跡です！」と言っていることになり、日々の生活の中で「奇跡です！」と言いつつながら私たちが生きている毎日は、奇跡に満ちた毎日と言えます。

人は笑顔で「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えながら生活しています。しかし、どれだけ感謝の気持ちが伝わっているのかはわかりません。でも、「ありがとう」という言葉は人を幸せにします。毎日「ありがとう」と言い続けることで、自分自身が幸せになつていくのだと思います。



十月七日(土)

静岡地区

グランドホテル中島屋

参加者一九〇人

1 開会式

司会

駿河総合高校PTA 副会長 曾田和幸

関の言葉

駿河総合高校PTA 会長 平野貴久

来賓挨拶

県立高校PTA連合会 副会長

青山 健

世話人校長挨拶

駿河総合高校 校長 酒井行男

日程説明

駿河総合高校PTA庶務 多々良妙子



2 全体会

駿河総合高校PTA活動の紹介

講演 演題

駿河総合高校和太鼓部 演奏

全員の僕が弁護士になつた理由

…僕が両親から教つたもの

講師 大胡田 誠氏

(弁護士法人)つくし総合法律事務所

講演内容

(1)御自身の弁護士の仕事について話をしてくださいました。
弁護士となつて二〇年がたちます。テレビからの情報では、弁護士は刑事事件を担当する、または会社の顧問をする等の印象がありますが、自分の仕事は町弁と呼ばれる仕事をしています。具体的には離婚問題、相続問題、交通事故の問題等を扱っています。その際には全盲用のIT機器を活用しています。(点字の電子手帳、画面を読み上げてくれるiPhone、振動でわかる時計、色を認識する機械等です。)アシスタントがあり、二人三脚で仕事をしています。(裁判所、警察署、現場等に常同行してきています。)



弁護士として一番心を砕くのが依頼者との信頼関係を成熟することです。依頼者は絶対絶命の人がやってきます。目が見えない弁護士を信頼してもらうためにどうすれば良いか、そこに苦勞し、勉強し、注意しています。アメリカの心理学者アルバート・メラビアンによると、初対面での印象の要素は、表情が55パーセント、声のトーン・話し方が38パーセントと、非言語が上位を占め、言葉は7パーセントしかないそうです。依頼者との信頼関係を成熟するために、傾聴の仕方に特に注意を払っています。注意点は以下の通りです。
視界に入れて話を聞く

感情が表れた言葉に相づちを打つ
相手の話を遮らない
時々相手の話を要約してあげる
話を急かさない
相手を非難しない
相手が心を開いてくれないと感じるときは、自分が力んでいたりして、それが相手に伝わる。理解してもらいたければ、相手を理解することである。「をモットーに弁護士活動をしています。」

(2)全盲夫婦の子育てについて話をしてくださいました。(この項目は、見聞した感想を記載します。)
テレビ番組に取り上げられた子育ての様子が映像で流れました。妻も全盲で、我々にとつて何気ない日常を、そのように過ごしている様子が短い映像ですが流れました。何気ない日常でしたが、そこに至るまでの苦勞を想像すると感動なしでは見られません。2010年に結婚し、現在は6歳(小学校1年生)と5歳のお子様がいるそうです。



(3)弁護士になるまでの生活について話をしてくださいました。
強度の弱視で生まれました。中伊豆町の生まれでしたが、12歳で失明し、中学校からは静岡を離れ、全寮制の東京の盲学校に通うようになりました。その間、でき

ていたことができなかったことにコンプレックス(劣等感)を感じていました。しかしその時に、ぶつかって、ぶつかって」という本に出会いました。その本は、全盲の方が弁護士になったお話でした。その本と出会い、自分自身のプライドを取り戻したく、弁護士を目指すようになりました。けれどもその後の道のりも平坦ではありませんでした。まず大学受験では、点字の参考書等がなく、受験勉強を始めることが大変でした。大学に合格できた後も、下宿探しでは差別を実感しました。大学でも、音声の出る電子手帳がうるさいといわれ、授業を受ける権利について、授業が討論会の場となる経験をしました。司法試験の準備を始める時、いくつもの司法試験予備校に受け入れを断られる経験もしました。様々な苦勞を重ね、司法試験を大学4年から受け始めました。不合格が続きましたが、5回目合格することができました。4回目の不合格のときには、もうこれ以上無理だ」と思いましたが、両親に言葉かけられ、受験を継続し、合格に結ぶことができました。

講演ありがとうございました。

3 閉会式

来年度世話人校長挨拶

静岡農産高校PTA 会長 近藤ひろの

関の言葉

駿河総合高校PTA 副会長

西尾ひろみ

志太・榛原地区

焼津市文化会館

十月六日（金）

参加者一八六名

研修テーマ

『褒めて育てる』

一 全体会

司会

島田商業高等学校PTA 副会長

村松純紀

主催者代表挨拶

島田商業高等学校PTA 会長 北川和也

主管校代表挨拶

島田商業高等学校 副校長 西川聖美

来賓挨拶

県公立高等学校PTA連合会 会長

小山全司

二 講演

演題① スポーツを社会に生かす」

演題② 共に育ち生きる」

講師 元マラソン選手

有森裕子 氏

講師の有森先生は、元マラソン選手であり、オリンピックメダリストです。現在もオリンピックに様々な形で携わっているとのこと。その中で、スペシャルオリンピックスとパラリンピックについての話をしてくださいました。スペシャルオリンピックスは知的障がい者、パラリンピックは身体障がい者が競技に参加します。有森さんは障がいの有無ではなく、人間はこんなことができるのか、という驚きと感動があるとお話してくださいました。その熱いお話に心が温かくなり、元気をたくさんいただいたような気がしました。



写真「テレビ寺小屋」有森裕子 氏

三 グループ別意見交換会 まとめ

A～Dの四つのグループに分かれ、それぞれ主管校・協力校の校長等による司会・進行のもと、意見交換会のテーマに基づいて、率直に意見を出し合っていたいただきました。どのグループも予定していた時間を越えてしまうほど、討論が盛り上がりました。

- ①子どもの悩みについて
 - ・子どもの将来の目標が決まっていない。
 - ・父親と母親の子育てに関する役割の違い。
 - ・部活動には熱心に取り組んでいるが、受験が心配。
 - ・兄弟を比較しないように、心がけている。
 - ・部活動と学校生活の両立が上手くいかない時期があった。
 - ・女子力が無い事が心配である。
 - ・子どもが3年生で今年受験であるのに、将来の目標が決まっていなく、漠然としている。
- ・アドバイスの方が分からない。
- ・スマホをさわる時間が長い。
- ・おこずかいをどのくらいあげるか。
- ・本人の考えを尊重する。本人がどれだけ一生懸命にやっているか。
- ・父親と子どもと接点が少ない。
- ・やっていることが結果に結びつかなかった場合の対応を親としてどうすればいいか。

- ・受験生なので小言を言ってしまおう。
- ・年の離れた姉妹なので、親も対応に困る。
- ②褒める・叱る内容
 - ・褒める・叱るといふことは、相手を見守っているということ、家庭だけでなく地域でも見守り育てることが必要。
 - ・約束を破ることをした時には叱る。
 - ・常識的なことができていない場合は、小さな子どもにも諭すように目線を下げて叱る。
- ・褒めるばかりでは成長しない。
- ・褒められ慣れている子どもは、自分が何でもできると勘違いしてしまい、少し怒られると折れてしまう子どもが多い。
- ・以前は叱られても怒られても立ち向かいあきらめない子どもが多かったが、今は精神面で弱い子どもが多くなり、少し怒られると諦めてしまう。
- ・どれだけ大人の理不尽さを自分自身で飲み込み対応できる人間になれるかが、重要である。
- ・間違った方向に行った時、良いことをした時。

- ③褒め方・叱り方の工夫
 - ・叱るときには感情的にならずどうしていけないのか、しっかりと説明する。
 - ・褒めるときには大げさに褒める。
 - ・上から目線で叱らない。
 - ・子どもの前では夫婦で互いの悪口を言わない。互いに褒めるところを子どもに見せる。
 - ・叱るだけでなく信じてあげることも必要。学校では頑張っていることが多いので家庭では少し自由にさせている。
 - ・過去にさかのぼること無くタイミングを大切にす。
 - ・夫婦両方で子どもを叱らない。
 - ・子どもの顔色、大人の顔色を伺いながら接するのではなく、思ったことをぶつけ合う事も時には大切である。



写真 グループ別意見交換会

- ・親は子どもを信じて見守るしかない。
- ・日常の些細な事でも褒める。
- ・社会に出ていろいろ経験すれば、いつかは分かるはず。失敗して学んでほしいと思っている。
- ・結果に対して褒めるのではなく、そこまでの過程に対して褒めてやる。

- ④指導・助言
 - ・結果よりプロセスが大切。誰もが成功し結果を出せるわけではない、プロセスを見て評価することが大切である。
 - ・ただ褒めることより認めることが大切、第一に子どもの存在を、次に、評価と結果を認めてあげることが大切である。
 - ・叱ると怒るは違う、叱るとは相手を成長させるために言うこと、怒るとは自分の感情のままに言うてしまうこと、叱ることは子どもの成長にとって大切である。
 - ・褒めて育てることを意識していますが最近では自分は褒められて伸びるタイプと思っている若者が多い。
 - ・褒められることで、一生懸命がんばろうという気持ちは生まれ、それが自信につながっていく。
 - ・成長するための一つの要素として大切に

ある。
 ・褒められたと思われる人になれるように。
 ・褒められることが、うれしいということに気がつく人になれる。

・結果を重視すると褒められることにプレッシャーを感じてしまうので、大事なことは過程である。過程を見てあげることにより自身で大切な部分に気がつくようになる。

・叱るという事に関しては、叱られた原因が分からないことと、時間の経過とともに忘れてしまうので、明確にすることが大事である。

・叱ると怒るの区別を付ける。
 ・感情的にならず、冷静に接するようにする。

・生徒には認めてあげることが大切にしていく。

・一年生には新しい環境で頑張ったことは変化への対応力が育ったことなのでそれを褒めてあげたい。

・三年生には部活動を頑張ってきたことを褒めることで、進路試験に入る前のモチベーションをあげることにしている。

・日米中韓の四国中で日本の学生は、弱いものいじめへの注意を余りにしないと自己肯定感が低いなどの問題を抱えている。
 ・キャリア教育を大切にして職業観を育てたい。

⑤終わりに
 お忙しい中、研修会に参加して下さいました皆様、講演・助言を下された先生方、また、会の運営に携わった皆様、ありがとうございました。

七月十日(月)
エコパアリーナ
参加者 九二人

一 開会

- 総司会
 横須賀高校PTA 副会長 横田敦子
 開会の言葉
 横須賀高校PTA 評議員 池田和恵
 実行委員会挨拶
 横須賀高校PTA 会長 渡邊正美



当番校長挨拶 横須賀高校長 三科亨
 来賓祝辞
 静岡県公立普通高等学校PTA連合会
 副会長 山崎好和

二 講演会

- 講師紹介
 横須賀高校PTA 副会長 熊切美子
 講演
 講師 遠州横須賀祭部 鈴木武史氏
 演題 地域が育く、地域リーダー
 となる高校生

〈横須賀地区について〉
 ほんのすこし時計の針がゆつくりすす

む町。人と人との関わりが濃く、人情味溢れ、情緒ある町並みである。
 お祭りについて

四月第一金土日。三熊野神社大祭として遠州横須賀に江戸天下祭が甦る。鈴木氏が高校生の頃は、高校生がお祭りに参加することは飲酒喫煙や喧嘩暴力、夜遊びの類を理由に禁止されていた。しかし、鈴木氏はお祭りを、ただ大人がお酒を飲んだり騒いだりするのがお祭りではないと主張した。さらに、伝統的であり文化的なものである御祭禮として次世代を担う高校生にしっかりと受け継ぐため、参加してもらいたいと願い続け、交渉や問題改善の先陣に立ち、その願いが叶うこととなった。



〈横須賀高校郷土芸能部について〉

学校の部活動として、県無形文化財を正しく学び、街中にお囃子が毎日きこえてきてとても嬉しい。鈴木氏も感心するほどレベルが高く、本当に一生懸命に取り組んでいる。練習や演技発表だけでなく、地域の行事にも参加し、まさに地域貢献をしている。過去九回の全国大会出場という輝かしい経験と、惜しくも全国大会出場を逃すという苦い経験を両方しているため、これからの成長が更に楽しみである。

地域における中学生・高校生の活躍
 お祭りはもちろんだが、季節行事や防災訓練において、自分達に与えられた役割に一生懸命に取り組んでいる。さらに高校生は自分達でできることを探す力もある。先程から名前がでていた横須賀高校郷土芸能部は地域イベントの準備や運営に欠かせない大きな力である。
 これからの時代

少子化が進み、一見マイナスイメージなことが世界では言われるが、その分【固有名詞の力】が強くなり、個の力を発揮しやすくなるからチャンスである。

講演会お礼

- 横須賀高校PTA 評議員 熊切美子
 三アトラクション
 横須賀高校 郷土芸能部
 三軒祭礼囃子
 第67回全国高等学校PTA連合会静岡
 岡大会オープニングアトラクション編



四 施設見学

- エコパアリーナとサブアリーナを見学。
 施設の方が説明をしてくださった。
 五 閉会
 当番校より御礼
 横須賀高校総務課 教諭 菊池奈々恵
 次回当番校 掛川工業高校
 閉会の言葉

横須賀高校PTA 評議員 池田和恵

アンケートより

・横須賀高校の活動には興味がありましたが、実際見させて頂けてよかったです。互いの学校の活動は気になります。
 ・例年の硬い雰囲気講演会や勉強会ではなく、今回の雰囲気はとても良かったです。
 ・高校生アトラクション、みんなとてもがんばっていてすてきでした！講師の方もとても人柄がよく、いい街だなと思いました。
 ・横須賀高校のアトラクションがとても良かったです。学校の自慢すべきもの、特色、アピールすることが明確にありとても良いと思いました。

・住んでいる地域は子供達が嫌々祭りに参加させられているケースが多いので、晴々とした笑顔の高校生がすてきだと思います。地域の大人が良いのだろうかと思います。
 ・全国大会に向けて、会場の下見ができた事がよかったです。

七月二十二日(土)
 磐田市文化振興センター

参加者 一五五人

研修テーマ 『ネット・スマホ問題』

～家庭と学校の連携～

一 全体会

司会 磐田農業高等学校PTA 副会長

鈴木真樹

開会のことば

磐田北原高等学校PTA 副会長

森岡 剛

理事長PTA会長あいさつ

磐田農業高等学校PTA 会長

校長会会長あいさつ

磐田南原中学校 校長

白畑 豊

来賓あいさつ

県公守高等学校PTA連会会

副会長 山崎好和

県東海大会報告

磐田北原高等学校PTA 会長 小山正信

二 講演会

アンケート報告

携帯電話・スマートフォン使用の現状と課題に関する報告

磐田農業高等学校PTA

内閣府が実施している「青少年のインターネット利用環境実態調査」によると、平成27年度、青少年の79.7%が何らかの機器でインターネットを利用しており、高校生の利用率は97.7%に上ります。そのうち、スマートフォンでインターネットを利用する高校生の割合は92.3%となっています。各地区からスマートフォンの使い

すぎによる睡眠時間や学習時間の減少等の弊害を危惧する声が上がっています。多くの高校生が深夜になってもLINEのやり取りに睡眠時間を奪われたり、勉強時間もスマートフォンを傍らにおいて着信があれば学習が中断したりする事態が生じています。私たち保護者は子どもたちの健全な成長や大切な時間を奪われないようにすることが急務であると考えます。PTA Aとしては生徒と保護者を対象とした利用状況の実態調査を行い携帯電話・スマートフォン使用の問題点について理解を深める必要があると考えました。

平成25年度PTA支部会で携帯電話・スマートフォン使用に関する諸問題が提起

され、平成27年度10月のPTA常任委員会において、携帯電話やスマートフォンの使用に関して、申し合わせを行い、翌年、PTA総会での提案、平成28年4月のPTA常任委員会での審議を経て、平成28年5月、PTA総会で承認されました。申し合わせ事項は「(1)午後10時以降、携帯電話やスマートフォンの使用を自粛する。(2)家庭内で携帯電話やスマートフォンの使用についてルールづくりをする。」です。

アンケートは各家庭での現状や生徒の使用実態を調査するため、平成29年1月、本校生徒593名対象に実施し、質問項目は、講演をさせていただきました静岡大学准教授塩田真吾先生にご指導していただきました。

アンケート内容は、(1)利用状況(機器とアプリについて)、(2)利用状況(利用時間について)、(3)利用時のトラブルについて、(4)家庭でのルール、アンケート調査結果と分析については、(1)機器とアプリについての利用状況、(2)時間についての利用状況、(3)利用時のトラブル、(4)家庭でのルール、(5)ICT社会における子ども・若者の人間関係について次の通り分析しました。

ネットサービスの利用状況は、LINEが非常に利用者数が多いアプリケーションであることがわかります。インスタグラムについては、上級学年になるに従って利用率もあがっており、ソーシャルゲームと同様、男女間に有意な開きが見られます。平日の利用時間よりも、休日の利用時間の方が、1時間程度長い生徒が多くみられ、平日の利用時間が長い生徒は、休日の利用時間も長い傾向にあります。

家庭でのルール設定率は低く、家庭で話

し合いによりルールを決めた生徒の多くがルールを守っているのに対して、押しつけられたと思っている生徒は過半数がルールを守ることができていません。家庭で話し合いながらルールを決めることが大切であることを裏付けています。

今後、保護者が生徒と向き合う姿勢として生徒自身の手によるルールづくりが有効であるので子供の考えを認める姿勢が必要で、学校・保護者が連携して実施している手だては有意義であることが確認できました。

生徒達自身がこれからネット世界の危険性に対応できるようにするために、自分達の利用方法について真剣に課題を解決しようとしていく姿勢を育てるため、保護者も一緒に考えることが必要です。現在の方向性が正しいことに自信を持ち、PTA・学校・生徒が丸となって学校生活を充実させていきたいと考えます。



講演会
 演題 ネット・スマホ問題と

家庭の親の対応

講師

静岡大学教養学部

准教授 塩田豊吾氏

最初に先ほどアンケート調査の結果をPTA方々からご紹介をいただきました。大変よく調べられ、分析までかなり精緻にされたというのが印象で、大変「苦労があったのではないかと思います。」

一、LINEの利用実態とトラブル(3万人調査)

LINEの利用率は小学生(5〜6年)約37%、中学生約59%、小学生約95%です。利用時間は全体の55%が1時間未満ですが、ただし、14%が3時間以上です。LINEでの嫌な体験のある児童・生徒は小学5年生から高校2年生では増加するが、高校3年生で減少します。嫌な体験とは、知らない人からの友達追加や長時間トークが多く、特にグループトークに関する問題です。7割以上がトラブルは、特に何も起きていない。」と認識しているようです。

二、子どものフィルタリングの「非」利用率
小学校6年生では21.6%、中学校2年生では36.2%、高校2年生では49.4%ですが、皆さんは知っていますか？

静岡県条例「青少年のための良好な環境整備に関する条例」が改訂され、保護者は青少年が携帯電話インターネット接続の役務の提供を受ける場合にはフィルタリングサービスを利用するよう努めなければなりません。

三、情報モラル教育の課題

(一)ありがちな指導方法(トラブル事例の紹介)

極端なトラブル事例をたくさんみせて、怖がらせる。子どもは自分は「悪口」なんて言っていないし、不適切な写真「なんてアップしていない。不適切でないと思ってアッ

プしたものが、友達から見たら不適切だった。

〈指導のポイント〉

不適切な写真とは何なのか考えさせ、情報モラルの問題を「自分のこと」として自覚させることです。

(二)ありがちな指導方法(ルールづくりの指導)

テレビ、ゲーム、ケータイの使い方や視聴時間について家庭でルールをつくらせる。ルールをつくれれば、それでよいのでしょうか？ 次のルール、何が問題なのでしょう？ 考えてみてください。

・夜遅くには連絡をしない。
・ネットで友達との悪口を書かない。
・ネットで相手の嫌なことをしない。
・不適切な写真をアップしない。
・スマホを使いすぎない。
なぜ、ルールづくりが必要か考えてみてください。

ルールの3つの機能とは

① やってはいけないこと ② 正当でないわけ ③ 罰則を与える際の根拠
安易なルール化の弊害

安易なルールづくりを推奨することで、子どもたちを思考停止状態にしているのではないだろうか。例「悪口を言わない」、「嫌なことをしない」というルール

マナー(礼儀)をルール規則化するのと、「なぜ悪口を書いてはいけないのか」を考えることを停止させてしまう。

〈指導のポイント〉
スローガンのなルールづくりを推奨する前に

・なぜ、そのルールが必要なのかを考えさせ、ルールの中の「曖昧さ」とつくって終わりではなく、そのルールを運用するための方法を考えさせる。

・タイムマネジメントの発想を身に付けさせ、時間を予想する癖をつけさせること

が大切です。自分の名前を10回書くとしたら何秒かかるか予想してみてください。

まとめとして、どういったトラブルがあるのか、フィルタリングの利用、そして指導方法として自覚をさせること、そしてルールというのは単につくればいいわけではなく、曖昧さを議論させて、それを守るための方法まで考えさせるということです。子どもたちに自覚をさせる、そしてルールづくりをしていく他に、高校生位になると、メディアと上手に付き合うための力を付けてほしい。その時は少し立ち止まって、送り手の意図を考える力を、身に付けさせてほしいと私たちは願っています。



三 謝辞

磐田農業高等学校校長 大倉昌利

四 携帯スマホについての提案

磐田農業高等学校PTA会長 永井光雄

五 閉会の言葉

磐田農業高等学校PTA副会長 芝田博正

六月九日(金)

浜松地区 浜松呉竹荘
参加者 144人

【総会】

会長挨拶 浜松湖南高校

池田真弓氏

この何年間浜松校P連として呼びかけていますスマートフォンなどの22時以降の使用自粛にきまして、皆様の「家庭ではいかがでしょうか。」

この浜松でもSNSのやりとりで問題がおり、高校進学をあとめたという事例があったようです。このことを大きな問題と捉え、今後の課題として取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

来賓挨拶 静岡県PTA連副会長

山崎好和氏

PTA活動は子供たちの健全な教育環境や生活環境を守るために皆様と学校が一致協力し、環境改善に努めるとともに、会員相互の交流や研修会などを通じて、会員自らの資質を向上することを目標とする場でございます。

皆様には既に「ご存知かと思いますが、PTAの三つの団体の概要と全国大会静岡大会について、お話をさせていただきます」と思っています。

まず、全国高等学校PTA連合会です。一般社団法人として、理事会、総会その他委員会が行われ、毎年行われます。全国高等学校連合会大会を主催し、各都道府県にその主管をお願いしているところでございます。また、健全育成委員会、進路対策委員会、調査広報委員会、研修委員会の4つの委員会が常設され、各種研修等を通して子供たちの問題把握に努めております。

続きまして、東海地区PTA連合会は東海4県・静岡・愛知・岐阜・三重の四つの連合会の単位で構成され、理事会、委員会、総会等で出された要望を全国の役員会に提出しております。そして、県の組織であります静岡県高P連関係ですが、去る、6月1日、県高P連総会・研修会では、各高校のPTAから計361名の会員の皆様にご出席いただきました。今年度の研修会では静岡大学の教授阿部耕也先生を講師に『子供と大人がともに成長するPTA活動』と題しまして、ご講演いただき、研修会後には、第67回全国高等学校PTA連合会静岡大会の集会を開催し、皆で結束の確認をいたしました。

最後に八月に迫りました全国大会静岡大会について、改めてご案内申し上げます。8月24日木曜日、25日金曜日の2日間、袋井のエコバをメイン会場にし、更に分科会では、静岡市民文化会館、静岡市清水文化会館マリナート、そして浜松のアクトシティ浜松においての開催となり、全国から約1万人のPTA関係者が参加されます。また、その前日、23日水曜日には、全国の役員の方々と大会関係者による前日諸会議が予定されております。先日の静岡大会集会におきまして、もおもてなしの気持ちをもつての対応をお願いしたところでございますが、まさに、この大会の成功は、ご協力いただける皆様方に掛かっていると云っても過言ではございません。我々PTA会員が一丸となって、何としても静岡大会の成功を成し遂げましょう。何卒、皆様のご協力をお願い申し上げます。

本日の研修会が、今後のPTA活動の役に立ちますように、実りある研修会になることを祈念いたします。

【講演】 演題 防災用品の活用について 講師 ミドリ安全株式会社

網谷匡史氏



神戸支店に20代後半に転勤し、三カ月後に阪神大震災に遭いました。その後、転勤を繰り返しながら、東日本大震災被災に遭いました。ミドリ安全には約千五百人の社員がおりますが、二回被災したのは私くらいなものです。



現在は地震に縁がある危機管理営業部長を拝命しております。今日は、実体験を踏まえながらお話をさせていただきます。

近年発生している自然災害について、記

憶に新しい所では、東日本大震災、正式名称は東北地方太平洋沖地震でございます。この地震と十勝沖地震、これがいわゆる海溝型の地震でございます。去年の7月に熊本地震、10月には、鳥取県中部地震がありました。これは共に局地的におおる直下型の地震となっております。この日本地図の黄色から赤になっている部分は、地震調査委員会が今後30年に起こりうる震度6以上の地震の分布を表しているもので、赤く色づいている地区の方が、確立が高いということになっていきます。ちなみに、今年の4月27日に最新版が発表されましたが、静岡市は69%で、かなり高い確率です。静岡県は太平洋岸全域にかなり高い確率です。ちなみに、私が住んでいる横浜市は81%で、千葉市について、全国二番目に発生確率が高いということになっております。時新型別に見ると、海溝型の地震は、やはり、太平洋岸の地域が真っ赤になっていきますが、直下型の地震は、全国的に薄い黄色色になっていきます。そういう意味では、直下型の地震、活断層による地震は全国各地どこでおきてもおかしくないことがわかります。

近年、水害が増えています。記憶に新しい所では、北海道に三つ台風が来ました。23年ぶりに北海道に上陸ということでした。東北地方でも台風10号が観測史上初めて、東北地方の太平洋岸に上陸しました。岩手県を中心に浸水があったりしました。一昨年、関東東北豪雨がありまして、鬼怒川が決壊して、家が流され、死者が14人でした。その前の年、広島では、平成26年八月豪雨が起り、広島以外に關西地区にも被害を及ぼしました。この時は、積乱雲が連続的に発生するバツビルディング現象から、大規模な土石流が起りまして、死者が74人という痛ましい災害になっております。近年、ゲリラ豪雨と

もに、このような水害は全国で起こる災害となっておりますので、地震とともに、自然災害からの防災ということでも、ご考慮いただきたい。

東日本大震災の時の大きな問題の一つとなったのが、首都圏で帰宅困難者の問題でした。主要な鉄道の全線が運航休止となりました。九時位から徐々に運行を再開し始めまして、帰れる人もいましたが、私は渋谷にいて、正月の初詣のような人混みで、歩くのにも危ない状態でした。ほとんどの人は翌日に帰宅しました。備蓄を持つている企業は泊め置くことができたのですが、そうでない企業の社員は歩いて帰らざるを得なかったのです。これを機に東京都では帰宅困難者条例を制定しまして、3日間会社に留め置くことができるようにして下さい。という内容で罰則規定はありません。発災から三日間は復旧を優先させたいということで、大勢の人で混雑することを避けたいというものでした。この時、JRは運行休止を決定した後、すぐにシャッターを閉めてしましまして、そのことを当時の石原都知事がJR東日本の社長を呼びつけて、お叱りになられて、今は、JRの各駅に乗客用の備蓄品が準備されている。この時、石原都知事は、生徒一人あたりに一萬円の補助金をつけて防災用品の補助とする大英断を行いました。

静岡県の被害想定は二つの想定からなっております。レベル1は七十年〜百年に一度の大きな被害の地震、レベル2は千年に一度の甚大な被害を起す地震となっております。上下水道はほぼ全域で断水、復旧するのは一カ月後となっております。これはレベル1も2もほぼ同じとなっております。携帯電話は、復旧までにレベル1では一週間、レベル2では二週間となっております。物資不足については、給水、食糧の備蓄とも市町村の備蓄だけでは足りないので、家庭や、

職場、学校での備蓄が大切です。

保存食選びのポイントには調理せずにそのまま食べられることが重要です。また、カロリーが高いもの、食べた後のごみの量が少ないものが良いと考えています。また、備蓄するならば保管場所をとらないものを考えています。場所とお金の問題があり、東京でも半数の企業がまだ備蓄できていないのが現状です。

「サバイバルパンの実食」

缶入りのパンで酸素を抜いてから加熱殺菌しております。現在は、缶から紙のパッケージに変更しまして、ごみの量が20分の1に減少しました。

また、現地でかなり問題になるのが、トイレ問題です。報道関係ではあまり取り上げられない。水洗便所が流せなくなり、食中毒がでたりするのはトイレ問題で衛生状態が悪化するのが一因になります。また、トイレに行きたくないのであまり、食べない、飲まないようにすることで、エコーミー症候群などになりやすくなるとも言われています。排泄物をビニール袋の中で凝固させる製品があり、1日5回用を足すことができます。40人分だと二百袋になります。圧縮することができます。死因別について、阪神淡路大震災では、圧死が多くを占め、火災は10%くらいしかなかった。直下型の地震の場合、家具の転倒対策が重要になります。テレビは飛ぶ、など固定されていない家具の多くは危険です。学校ですと、職員室、図書室、保健室、生物、化学室などが危険な場所になります。音楽室のピアノなども走り回る可能性があります。

その日を恐れるのではなく、その日に備える。私たちが生きている間に地震がおこる可能性は高いのですが、備えることで、被害を少なくしていただきたいと思います。



特別支援

六月十日(土)
あざれあ
参加者 九六人

【総会】

司会 浜松視覚特別支援学校

一 開会のことば

大林 幸徳

浜松視覚特別支援学校

松村かおり

二 会長あいさつ

富士特別支援学校

深澤 志乃

三 来賓祝辞

静岡県公立高等学校PTA連合会

会長 小山全司



四 来賓紹介

静岡県公立高等学校PTA連合会

会長 小山全司

五 議事

(一)平成28年度事業報告並びに決算の承認について

(二)新役員承認について

(三)新会長あいさつ

(四)チーム★輝きの予算抽出について

浜松視覚特別支援学校

PTA会長 三原秀樹

これまで経緯説明

富士特別支援学校 深澤志乃

本会はふじのくにチーム★輝きに補助金を拠出しているが、その活動や成果について十分に確認せずに続けてきた。このことに疑問が出されたため、説明してもらうことにした。

ふじのくにチーム★輝きは県内の障害のある児童生徒の、自己表現の場として行われている活動である。平成19年・20年の県教委企画の輝きブックに端を発し、平成21年に初めて静岡駅地下のイベント広場で行われた。毎回反響があったためこれまで9回開催され、県内特別支援学校・特別支援学級の在校生や卒業生、その兄弟姉妹、保護者や関係者など多くの方が参加している。障害を持つ本人だけでなく、その支援者も一緒に成長している。地下広場で行われることで、通りかかった一般の方々も関心を寄せてくださり、障害理解の裾野を広げることにも一役買っている。

主な経費は、チラシやポスター、当日の音響設備、必要な機材等の運搬費、郵送料などである。昨年度はチラシを県内の全特別支援学校、保護者、地域の自治会などに一万五千枚配布した。ボランティアやスタッフ数十人が支援してくださり、活動が続けられている。今年度も補助金をいただけるのであれば大変ありがたい。

会場より

・様々な方法で、さらに経費を削減する努力もしてほしい。

・これまで聞けなかった具体的な話を聞くことができてよかった。

(五)平成二十九年事業計画並びに予算案の審議

※活動計画・予算案とも承認

チーム★輝きの目的、活動と予算について
チーム★輝き代表 山崎美穂子 氏

六 閉会のことば

浜松視覚特別支援学校

松村かおり 氏

静岡県教育委員会より

来賓紹介

静岡県教育委員会特別支援教育課

課長 山崎 勝之 氏

事監 山田 浩昭 氏

教育監 滝尾 彰彦 氏

静岡県特別支援教育の現状と

今後の展望

県の特別支援学校の現状」

・各障害種別校の児童生徒数など

・地域の一員としての交流

交流籍での居住地校交流の試行

(沼津地区・藤枝地区)

学校間の交流・関係機関との連携

教育施設の充実と整備」

・西部特別支援学校の新設とその

様子の紹介

・東部特別支援学校新設についての

概要説明

・既存の学校の整備など

児童生徒の通学及びそれにかかる保

護者の負担軽減について」

・スクールバスの増車など

静岡県教育委員会より

安全確保、指導の改善、教職員の専

門性、専門職の配置」

・指導の改善に向けた人材確保。

(看護師、スクールカウンセラー、

就労促進専門員など)

・防災への取り組みなど